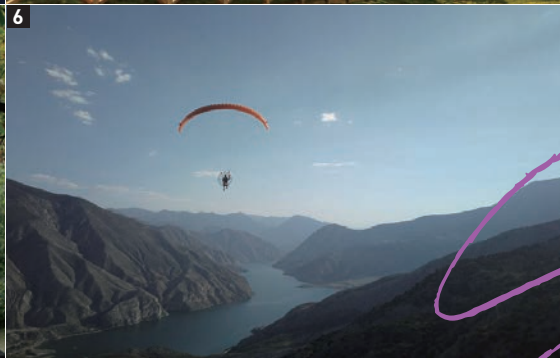


広大な海原望む 海辺の町

アナトリア半島の北岸、黒海に面するシノップ（Sinop）から約 40km 南下した海辺の町、ゲルゼ（Gerze）。2017 年にチッタスローに登録されたのは、素朴な手工芸品や郷土料理、旅人を受け入れる人々の温かさが理由だ。



1 水の流に癒やされる 2 サクルキョイの森の中にある滝 3 時代ごとに展示が分かれているシノップ考古学博物館 4 数百種類もの蝶が生息するサクルキョイの森 5 街と黒海を見渡すことができるシノップ灯台 6 空からゲルゼを一望できるパラグライダー

ゲルゼは青くきらめく広大な黒海の沿岸にある。1400年ごろに誕生した町で、ヒッタイト、フリギア、キンメル、リディア、ペルシア、アレキサンダー大王、ローマ、そしてビザンチンなどに支配されながらその歴史を刻んできた。

19世紀後半以降、多くの火災に見舞われた歴史もある。1956年には800戸以上の住宅と300カ所以上の店舗が全焼したが、州により再建され今日に至っている。この大火災後、1960年7月に被災者住宅が完成したことを記念し、毎年7月はゲルゼ・フェスティバルが開かれている。

ゲルゼの見どころは、建設から約400年の歴史を経て町中に建つデデ・ジュマモスク。石と木の調和が美しいモスクは人々の祈りの場であり、毎年春の祭りには近隣の村や町から人々が集まってくるという。

町の中心部に建つモダンな大邸宅、ヤークップ・アーア邸は1911年に建設された。1階は店舗、2階以上がマンションになっている。また、海辺に立つゲルゼ灯台は町のシンボルの一つ。高さは6mあり、1943年に建てられたとされている。

ゲルゼ中心部から15km、イエニケント地区に位置するチェチェスルタンの墓は、セルジューク時代の建造物。1071年のマラズキルトの戦い後、チェチェスルタンはイスラム教を広めるためにアナトリアへ遠征したとされており、その後建物はモスクとして使用された。そのほか、オスマン帝国時代の宿泊施設だったタシュハンやローマ時代の古墳など、この町の歴史を垣間見ることができる遺跡がいくつも点在している。

旅行で訪れたら足を運びたいのは、毎週金曜に開かれるマーケットだ。湿気が多く、肥沃な黒海沿岸はさまざま

な農作物が収穫できる土地で、ここでも色とりどりの農産物を目にすることができる。地元の味なら魚料理を試したい。トルコで魚料理といえば焼くか揚げることが多いが、ここではカツオの塩漬けがおすすめ。下処理をした魚に塩コショウをふり、重石をして1か月寝かせたもので、そのままほぐして食べると素朴な味がしておいしい。

また、トルコ風ピザのピデ以外に、パンといえばスイミットやポアチャが知られているが、この地方ではノクルがポピュラーだ。パン代わりの前菜として食べるペストリーで、生地の中にクルミやケシの実、ホワイトチーズなどが入っている。

空から眺める絶景

ゲルゼで最もおすすめのアクティビティーはパラグライダーだ。町のすぐ後ろには小高い丘や山々が連なり、格好のスポットとなっている。上空からは真っ青な海とみずみずしい緑のコントラストを存分に楽しむことができ、一度はチャレンジしてみたい。

少し足を延ばして、サクルキョイの森の中にある美しく流れ落ちる滝を見に行くのもいいだろう。手つかずの自然に癒やされるのはもちろん、ここは数百種類もの蝶が生息する蝶の楽園となっている。いずれは観光客を呼ぶ人気のスポットになる可能性もありそうだ。

ゲルゼへのゲートウェイとなるのは、ゲルゼより北に位置するシノップ。空港も近く、国内の主要都市から空路でアクセスすることができる。農林水産業に加え観光業も盛んなので、できれば主要な観光スポットを見て回りたい。

旧市街の中心部にはシノップで最古のアラアッディンモスクがそびえている。

1267年の完成で、セルジューク時代様式が見どころだ。モスクのほど近くにあるシノップ考古学博物館も観光の定番スポット。2階建ての館内には、ホールごとにオスマン帝国時代やギリシャ・ローマ時代のモザイク画、石像、コインなどが展示されている。博物館の前には記念碑、殉教者の泉が建っているの、こちらにも忘れずに立ち寄りたい。1853年クリミア戦争の際に行われたシノップの海戦の犠牲者を弔う目的で建てられた。

シノップは黒海に突き出たボズテペ半島の中央にある町。半島の最も細くなった場所には城塞があり、城壁や塔が残る。全長約2kmの城壁は幅3m、高さ25m。ここに登るとシノップの街と黒海を見渡すことができ爽快だ。

伝統工芸品の数々

シノップではリネン生地やナイフなど多くの手工芸品が生産・販売されている。なかでも木製の船細工は、この地域の歴史が感じられる手工芸品としても有名だ。船細工は1950年代にシノップ刑務所の囚人によって生産が始まったという。細部まですべて木でできており、各パーツは、胡桃やブナ、楓などさまざまな種類の木を使い分けて作られているのが特徴だ。一つ一つ手作りのため、一つとして同じものがない。数ある手製の船細工から、自分だけのお気に入りを見つけたのも楽しい。お土産としても重宝するだろう。

また、ゲルゼではシノップ県と協力し、伝統工芸品に関するさまざまな職業訓練コースが開かれている。地元の若い女性を中心としたもので、木のおもちゃ、木彫りなど、各分野で職人技を伝授する講座が豊富にある。



ゲルゼ



チッタスロー（cittaslow）「スローシティ」の意。地域独自の生活・歴史文化や自然環境など多様性を重視した町づくり活動。